

# 宅老所のあり方研究会 講演シリーズ②

基調講演

## 「尊厳ある生き方 — 宅老所の役割」

講師 堀田 力 (さわやか福祉財団 理事長)

パネル討議

「宅老所の未来—  
高齢社会における宅老所の役割」



### 「宅老所を全国に広める会」全国研修会 in 仙台

主催：「宅老所を全国に広める会」

共催：「みやぎ宅老連絡会」「市民協宮城」「介護保険を持続・発展させる1000万人の輪・宮城」  
「介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城」

後援：「さわやか福祉財団」「市民福祉団体全国協議会」「宮城県」「認知症の人と家族の会宮城県支部」

# 「尊厳ある生き方—宅老所の役割」



## 堀田 力 (さわやか福祉財団 理事長)

### プロフィール

1934年京都府生まれ。1958年、京大法学部卒業。1961年、検事任官(札幌・旭川・大津各地検に順次勤務)。1965年、大阪地検検事。1966年、大阪地検特捜部検事(大阪タクシー汚職事件摘発)。1967年、法務省刑事局付検事(財政経済事件・公害事件担当)。1972年、在アメリカ合衆国日本国大使館一等書記官(ウォーターゲート事件フォロー)。1976年、東京地検特捜部検事(ロッキード事件担当)。1984年、法務大臣官房人事課長(司法改革に着手)。1988年、甲府地検検事正。1990年、法務大臣官房長。1991年、退職、弁護士登録、さわやか法律事務所及びさわやか福祉推進センター(1995年、さわやか福祉財団となる)開設。現、さわやか福祉財団理事長・弁護士。高齢社会NGO連携協議会(高連協)代表、民間法制・税制調査会座長、社会保障審議会委員、中央教育審議会委員、認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議発起人代表、東京の地域ケアを推進する会議委員長、日本プロサッカーリーグ裁定委員会委員長ほか。その他、教育課程審議会委員、医道審議会委員、中央社会福祉審議会委員、国民生活審議会委員、年齢にかかわらず働ける社会に関する有識者会議委員、神奈川県ボランティア活動推進基金審査会会長、高齢者介護研究会座長、政府税制調査会委員、東京都社会福祉協議会会長ほかを歴任。

## 福祉・ボランティアの世界に入って18年

日曜日の午後、これだけの皆様方が参加されて、「少しでも良い社会にしたい」「住みやすい社会にしたい」「そして宅老所をしっかりと各地に広めて行きたい」。そういう熱いお気持ちをもって集まっておられる。その熱意に感動するとともに、厚く敬意を表したいと思います。

私が福祉の世界、ボランティアの世界に飛び込んで、もう18年が経ちます。その間に、本当に素晴らしい志の方々、熱い思いの方々にたくさんお目にかかれて、こんな幸せはありません。その前の30年は検事としての30年であり、この間は悪い人とばかり知り合い、私の人生どうなるかと心配しておりましたが、その世界からこれだけの日本の最先端、熱い思いを持った善意の方々の世界に移り、お目にかかれるだけでも本当に力を毎日毎日頂ける、一緒にやっつけていける幸せを感じています。とは言いましても、世の中善意であればすぐすつとまいくかという、そうではありません。いろんな障害があり、それと闘いながら幾つもの障害を乗り越えて、少しずつ少しずつ前進していくという根気強い活動が必要です。この18年間を見ても、この世界で乗り越えられなかった障害はありません。まだたくさん残っていますが、これで駄目になるのではないかというような障害もありました。それを一つ一つ乗り越えてきた力は素晴らしいと思います。

経済、社会、政治も「失われた10年」と言われ、沈んでいく、

景気は上がらないし、政治もなかなかうまくいかない、といういろんな問題が起こる暗い年月が続いておりますが、その中で、輝いている皆様方が社会の最先端で住みやすい社会をつくるために道を切り開いて来ておられること、その力を大切にしたいと思います。

最後に、いろんなご質問を頂戴したいと思います。もちろん、全部答えられるような能力はありませんが、私の後ろに素晴らしいパネリストがそろっております。行政からNPOの最前線まで識者がそろっておりますので、遠慮せずにどんどん質問を出していただきたいと思います。

## 「尊厳ある生き方」が みんなめざす社会のキーワード

話の前半では、どんな社会をつくらうとしているのか、そのために、宅老所がどんな位置を持っているのか、全体の進む道を考えてと思います。宮城県の課長さんからのお話にもありましたが、あちこちで衝突が起っております。後半では、この問題をどう考えてどのように対応すればよいか、私の考えを申し上げて、みなさんと一緒に考えたいと思います。

まず、全体としてどのような社会に向けて進んでいくのか。進む道についての認識がないと、問題が起きた時に、賛成、反対、自分たちはこうするというスタンスがぐらつきます。難しい問題に当たれば当たるほど、一度基本に戻って、私たち

# 「宅老所の未来—— 高齢社会における宅老所の役割」

パネリスト：**浅川 澄一**（日本経済新聞 編集委員）

**土生 栄二**（厚生労働省 老健局 振興課長）

**西田 京子**（宅老所を全国に広める会 座長・たすけあい佐賀 代表）

**近藤 明美**（みやぎ宅老連絡会 副会長・おひさまくらぶ 代表）

コーディネーター：**田中 尚輝**（市民福祉団体全国協議会 専務理事）

## プロフィール

### 浅川 澄一

1948年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒。日本経済新聞入社。1987年に月刊誌「日経トレンディ」を創刊し、初代編集長。その後、流通経済部部長などを経て、現在、日本経済新聞編集委員。介護保険制度、高齢者福祉施設、家族介護問題など高齢者福祉にかかわる分野、保育園、幼稚園を含む乳幼児の保育をはじめ、働く女性の子育てにかかわる少子化問題などを専門とする。「宅老所は『小規模多機能型』で変わるか part1」（筒井書房）、「これこそ欲しい介護サービス!」（日本経済新聞社）他、著書多数。

### 土生 栄二

1962年生まれ。1976年、東京大学法学部卒。厚生省入省。1996年、在アメリカ合衆国日本国大使館一等書記官。1999年、厚生省児童家庭局企画課課長補佐（大臣官房政策課情報化・地域政策推進室地域政策調整官併任）。2000年、厚生省健康政策局総務課課長補佐。2001年、厚生労働省大臣官房会計課課長補佐。2002年、厚生労働省大臣官房総務課企画官（医政局併任）。2004年、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長。2005年、内閣官房内閣参事官（内閣総務官室）。2008年、厚生労働省老健局振興課長。

### 西田 京子

NPO法人たすけあい佐賀代表。宅老所を全国に広める会座長。市民福祉団体全国協議会理事。1945年中国生まれ。神奈川県で育ち、結婚後佐賀へ。高校の非常勤講師のかたわら、知的障害者作業所「かささぎの里」の運営に携わる。社会福祉士の資格を取得し、1994年に「宅老寄方（よいかた）」を開所。1999年、NPO法人「たすけあい佐賀」設立。2008年、宅老所を全国に広める会を設立。「困ったときはお互いさま」を合言葉に全国各地で講演。

### 近藤 明美

NPO法人おひさまくらぶ代表。みやぎ宅老連絡会副会長。市民福祉団体全国協議会理事。認知症の舅の介護経験から、1991年から助け合いコーディネーターとして活動。介護支援専門員、介護福祉士、認知症介護指導者。1999年、ボランティア型宅老所「NPO法人おひさまくらぶ」を設立。2003年から介護保険外デイサービス「あがらあいん」開設。「あがらあいん」とは、「あがってお茶っ飲んで」「おあがりください」を意味する仙台地方の方言。

### 田中 尚輝

1943年生まれ。社団法人長寿社会文化協会（WAC）常務理事、NPO法人市民福祉団体全国協議会専務理事、NPO法人NPO事業サポートセンター常務理事、NPO法人地域創造ネットワーク・ジャパン理事、一般社団法人市民事業支援機構理事として、高齢者・子ども・NPOにかかわる諸問題解決のため、執筆や全国的な講演活動に活躍中。著書は「団塊シニアだから成功する! NPOビジネス」「リーダーのあなたに贈る 実戦! NPOマネジメント」「NPOビジネスで起業する!」「高齢化時代のボランティア」「市民社会のボランティア」他多数。ブログ <http://blog.canpan.info/tanaka-naoki/>